

トルコにおける多宗教交流 コメント

事業創造大学院大学客員教授

古町愛宕神社権禰宜

松長 昭

トルコ共和国建国の初代大統領
ムスタファ・ケマル・アタテュルク



- ムスタファ・ケマル
- 1881-1938年間
- 軍人から政治家
- 初代大統領、トルコ共和国の基礎作り
- 議会がアタテュルク（トルコ人の父）を贈呈

トルコ共和国成立とイスラーム

- トルコ共和国成立（1923年）と世俗化政策
- 初代大統領ムスタファ・ケマル・アタテュルクの指導力
- 1924年：イスラーム法（シャリーア）と宗教裁判所の廃止
- 1924年、共和国政府は**宗教局**を設置。宗教局ではイスラーム教の理念、信仰、倫理に関する啓蒙活動のために設置された。宗教問題について監視し、トルコ共和国の世俗的なアイデンティティに異を唱えさせないようにした。1955年までモスクの数を制限
- 1925年：イスラーム神秘主義教団（タリーカ）の僧院（テツケ）、廟（テュルベ）の閉鎖と教団活動の禁止、一夫多妻制の禁止、服装改革（トルコ帽着用禁止、女性のヴェール、チャルシャフ姿の撤廃指導）
- 1926年：法律の世俗化（スイス民法、イタリア刑法、ドイツ・イタリア商法を典拠）、太陽暦採用
- 1928年：憲法から「イスラームが国教」条項を削除（国家と宗教の分離、宗教は個人の良心信仰の問題）、文字改革（アラビア文字からローマ字表記）
- 1934年：婦人参政権承認
- 1935年：休日変更（金曜から日曜）

世俗化（公でのイスラームをのぞく）

メヴレヴィー（旋踊）教団
廟破壊→博物館・伝統文化で復活



文字改革
アラブ文字からローマ字へ



宗務庁

- トルコ憲法は世俗主義を規定している。公の部分に宗教の関与を否定してきたが、政権与党にAKP（公正発展党）になりエルドアンが指導力を発揮すると、世俗主義に変化が生じている。大学、公務員のスカーフ着用の容認などの変化。国家がイスラームを管理するというのは共和国建国以来一貫している。
- 宗務庁は大統領府に属して、スンナ派ハナフィー学派によりトルコ国内のモスクの建設、維持管理とイマームなどの給料を国費で負担している。宗務庁管理以外のモスクやイマームはいない。イマームは金曜集団礼拝の導師、葬儀での導師をつとめる。イスラーム過激派を支持するようなイマームは宗務庁により排除される。トルコは、イスラームを国家管理するが、少数民族の宗教に関して対象としていない。過去の歴史から敢えて関わらない。
- イマームなどイスラーム宗教関係に採用されるにはイマーム養成学校（イマーム・ハーティプ）を卒業する必要がある。卒業生はアンカラ大学宗教学部で学ぶこともできる。

宗務庁（アンカラ）

コジャテペ・ジャーミー



コジャテペ・ジャーミー

